

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 抜歯即時インプラントの唇側骨確保へのアプローチ
演者名 小坪義博
日 付 2013年5月28日

keywords

1. ボーンエクспанション
2. テーパードインプラント
3. アンテリアガイド

抄 録

インプラントを埋入する場合には、周囲骨の確保が重要である。インプラントの初期固定はもちろんの事、インプラント体への感染防止のためのバリアーとしても、その役目を担っている。インプラント周囲骨の確保の方法としては、いわゆるGBRと言われる骨の欠損部位に自家骨なり、骨補填剤なりを置く事によって、厚みおよび幅を確保する方法がある。また、骨にスプリットを入れたり、骨に小さくドリリングした後にボーンエクспанションを用いて徐々に骨の幅を広げて行き、インプラントの埋入に必要なスペースを確保する方法もある。この場合も、広げた骨とインプラント体の間には、骨補填剤を填入する方が効果的であろう。今回、前歯部へのインプラントの即時埋入の際に、ボーンエクспанションテクニックを用いて、口蓋側の骨を唇側の骨欠損部へ移動させる事により、インプラント体の周囲を可能な限り自家骨で取り囲み、骨欠損部の治癒の促進、骨の厚みの回復、補綴の審美性の確保を図った症例を提示させていただきます。